

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	福祉	H2001058
	③	伊瀬 卓	経営	H1801008
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	子どもの森南町田保育園			
事業所連絡先	〒	194-0005		
	所在地	東京都町田市南町田4-29-12		
	TEL	042-850-6140		
事業所代表者氏名	長尾 義浩			
契約日	2023 年 5 月 15 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 11 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 11 月 28 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 8 月 18 日			
自己評価結果報告日	2023 年 11 月 28 日			
訪問調査日	2023 年 12 月 1 日			
評価合議日	2023 年 12 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂くため、評価の全体像や具体例を用いたわかりやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・職員にとっても「自分の居場所」としての保育園でありたい。 ・子どもたちにとって、「遊びたい遊びがある」「会いたい先生、友だちがいる」「活動・行事・給食が楽しみ」と思えるような保育園。 ・「遊び」こそが「学び」 ・子どもの「心」の育ちを丁寧に見守る。 理念、方針といった「大きな言葉」は空振りしやすい。大切なことは「小さい言葉」で語り合うこと。細部こそが大事
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・「子どもが好きだから保育に携わっている」人材ではなく、「子どもたちが好きになるような魅力のある」人材 ・「多様性」の意識が高い人材 ・探求心がある方 ・話し上手、聴き上手な方 ・ストレス解消が上手な方 ・子どもたちや保護者に敬意を持てる方
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・保育という仕事が専門職であることの使命感 ・保育という仕事が社会福祉事業であることの使命感 ・保育という仕事は「学び」続けていかなければいけない仕事であること。

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数:93世帯(在園児118名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

118

利用者家族総数(世帯)

93

共通評価項目による調査対象者数

93

共通評価項目による調査の有効回答者数

50

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

53.8

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」42%、「満足」46%、「大変満足」と「満足」を合わせて88%の回答率となっています。「どちらともいえない」8%、「不満」0%、「大変不満」2%、無回答が2%でした。園のサービスに対する保護者の満足度が高いことが確認されました。個別設問では、問10「職員の言葉遣いや態度は丁寧で、服装などの身だしなみが整っていると思いますか？」について「はい」の回答率が95.9%で最も高く、問12「子ども同士のけんかやいじめ等があった場合、職員は適切に対応してくれていると思いますか？」では「はい」の回答率が51%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	43	7	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の86%を占め、「どちらともいえない」が14%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、園の活動やプログラムについて満足を示す声が多数寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	47	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94%を占め、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どもが園生活を楽しむ様子について満足を示す声が複数寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	45	5	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の90%を占め、「どちらともいえない」が10%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、提供される食事やおやつについて満足を示す声が多く寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	42	7	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の84%を占め、「どちらともいえない」が14%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、自然や社会と関わる戸外活動について多様な意見が寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	2	0	15
この項目では、「はい」と答えた方が全体の66%を占め、「どちらともいえない」が4%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は30%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	31	16	3	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の62%を占め、「どちらともいえない」が32%、「いいえ」が6%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、不審者への対応など安全対策について改善を期待する声が多く寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	9	4	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の74%を占め、「どちらともいえない」が18%、「いいえ」が8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、行事などの開催日時について改善を期待する声が多く寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	37	11	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の74%を占め、「どちらともいえない」が22%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は2%という結果でした。自由記述では、相談などに対する職員の対応について多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	47	1	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94%を占め、「どちらともいえない」が2%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は2%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	48	1	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の96%を占め、「どちらともいえない」が2%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、職員のマナーなどについて多様な意見が寄せられました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	2	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の92%を占め、「どちらともいえない」が4%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は2%という結果でした。自由記述では、子どもの怪我や体調不良時の対応について満足を示す声が多く寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	16	1	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の52%を占め、「どちらともいえない」が32%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は14%という結果でした。自由記述では、子ども同士のトラブルへの対応について多様な意見が寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	42	6	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の84%を占め、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どもの気持ちへの寄り添い方について多様な意見が寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	44	2	1	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88%を占め、「どちらともいえない」が4%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は6%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	40	9	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の80%を占め、「どちらともいえない」が18%、「いいえ」が2%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	8	2	6
この項目では、「はい」と答えた方が全体の68%を占め、「どちらともいえない」が16%、「いいえ」が4%、「無回答＋非該当」は12%という結果でした。自由記述では、利用者の要望への対応について満足を示す声が複数寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	40	6	4	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の80%を占め、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
			7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	○非該当	
カテゴリ1の講評			
法人の理念や園の保育目標について、園内研修などで職員の理解を深めています 法人の運営理念を「子どもひとり一人を大切に温かい愛情のこもった保育を行い、保護者や地域から信頼される保育を目指す」、法人の運営方針を「ひとり一人の育ちを大切に丈夫な身体と豊かな心を育てる」と定めています。また、園の保育目標を「1.いいあたま2.やさしいこころ3.じょうぶなからだ4.がまんつよいこ」と定めています。これらの内容について、職員の理解を深める取り組みとして、職員会議で研修を取り入れています。そのほか、保護者に対しては、重要事項説明書に記載するとともに、入園説明会や園だよりなどで伝えています。 園長の役割や責任はキャリアパスシートに記載し、職員に伝えています 園長は、職員の意欲向上を最も重要な役割だと考えています。その役割と責任について、子どもの森南町田保育園キャリアパスシートに記載し、職員会議・昼礼などで職員に伝えています。また、主任を園長のサポート役として配置しています。直近で、理事長が指揮した事例として、福利厚生の見直し・園庭の設置などがあり、園長が指揮した事例として、バス散歩・屋上での水遊びなどがあります。これらの取り組みを通して、保育活動の充実を図っています。 重要な案件については、法人会議や園内会議の中で検討しています 法人の重要な案件を検討する場として、理事会・法人園長会会議を設けています。なお、これらの検討や決定手順について、稟議・決済の覚書に記載しています。また、園の重要な案件を検討する場として、リーダー会議・職員会議を設けています。最近、法人内で検討し職員に周知した重要案件として、「安全対策(置き去り防止)のカメラ設置」などがあります。そのような事例については、職員会議で職員に伝えています。そのほか、地域住民に対して周知した事例として、「保育園正門前車道の「スピードおとせ!」の看板設置」などがあります。			

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当		
●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当		
●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当		
●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当		
●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当		
●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ○あり ●なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当		
○あり ●なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当		
●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当		
●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 アンケートや面談で利用者ニーズを把握し感染症発生時の周知方法などを変更しています 利用者のニーズは、利用者アンケート・個人面談(年2回)・意見箱により把握し、年度末職員会議で職員に伝えています。なお、利用者アンケートは年度末に実施し、園全体に対する要望や意見を聞いています。意見を集計し、職員間で共有した後、保護者にフィードバックしています。要望への具体的な対応事例としては、「感染症発生時の周知方法」があります。感染症が発生した際には、感染状況について掲示する内容を細かくするなど周知方法を変更しています。そのほか、個別面談や職員会議などで職員の意向を把握しています。 園長会や地域ネットワーク会議に参加し、地域情報を収集しています 地域の福祉のニーズは、町田市主催の園長会(毎月)により把握し、職員会議で報告で職員に伝えています。なお、会議後には、法人立園長会を行い、情報共有や意見交換を行っています。また、家庭支援センター・児童相談所・警察・小学校・民生員が参加する地域ネットワーク会議(3~4カ月に1回)に参加し、虐待防止などについて意見交換をしています。今後町内会や自治会の会議に参加して行きたいと考えています。 園長と主任が中心となって単年度の事業計画を策定しています 単年度の計画は、前年度3月に園長・主任を中心に作成し、事務所内キャビネットに保管するとともに、年度はじめの職員会議で職員へ伝えています。また、進捗状況を職員会議で職員へ伝えるとともに、計画を見直す場合は、園長・主任が中心となって判断しています。具体的な見直しの例として「子育てひろば事業開始の延期」などが挙げられます。今後、中長期計画を策定していきたいと考えています。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

守るべき法や規則について、職員の心得や就業規則に明示しています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則について、職員の心得・就業規則を整備しています。関係書類は、事務所内キャビネットに保管するとともに、園長が中心となって入職時研修・キャリア別研修を実施して、職員の理解を深めています。今後、定められた規定やルールに従うだけでなく、職員自らが向上意欲をもって、コンプライアンスなどを語り合える環境づくりに努めて行きたいと考えています。

苦情解決制度や苦情対応マニュアルを整備し、保護者の意見や要望に対応しています

苦情があった際には、主任が受け付けし、園長が解決にあたっています。そのような体制や役割について苦情解決の仕組みについてのお知らせや玄関掲示で、保護者に伝えています。なお、意見や要望については、苦情対応マニュアルに沿って対応し、「回答の配布や園だより」などで回答しています。また、職員の子どもに対する適切な関わり方について保育の手引き(職員の心得)や不適切な保育の未然防止および発生時の対応についての手引きに示すとともに、人権研修を実施し理解を深めています。

地域貢献の取り組みとして「子育てひろば事業」を行っています

ボランティアなどを受け入れる際は、実習・ボランティア・体験学習受け入れの心得に沿って、主任が対応しています。なお、ボランティアには、お散歩の同伴・絵本の読み聞かせなどの活動機会を用意しています。また、地域貢献の取り組みとして「子育て広場事業」を毎月実施しています。具体的な内容として、育児相談・園庭開放・室内開放を企画し、ホームページにて公開などにより周知しています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
運営に係るリスクは職員会議で検討し、対策を講じています 運営に係るリスクとして、「職員不足(正規職員)」、「安定した経営」、「個別対応児の保育」などを挙げ、単年度事業計画に明示しています。これらのリスクへの対策については、職員会議で検討し、各リスクに対して「保育養成校との交流」、「職員の安定雇用」、「保護者対応強化」などの対策を打ち出しています。 地震や感染症を想定したBCPを作成し、有事の際に備えています 災害や深刻な事故などに遭遇した場合に備え、首都直下型地震・新型インフルエンザを想定した事業継続計画(BCP)を作成しています。危機管理の方法やBCPの内容について、職員会議で職員に伝えています。また、事故・感染症・侵入・災害などが発生した際は、事故報告書・ヒヤリハット・保育日誌などに記録しています。その上で発生要因を職員会議で分析するとともに、再発防止策を一斉メール・資料配布により利用者に報告しています。 個人情報については「個人情報保護規定」に沿って管理しています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、個人情報保護規定で定めています。職員会議などで説明し、職員の理解を深めるとともに、誓約書を取り交わして情報管理や文書管理の遵守を求めています。また、個人情報や機密性の高い情報を含む文書は、事務室内キャビネットに保管しています。加えて、PCやクラウドにログインする際のパスワードは、1年に1回の頻度で変更しています。個人情報の利用目的や開示請求の方法については、重要事項説明書・情報公開要綱に明示しています。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

カテゴリー5の講評

5階層のキャリアパスシートを作成し、職員の目指すべき道を示しています

職員の採用に際して、職員の年齢構成・人柄などを重視しながら、ハローワーク・保育養成校との連携・ホームページなどにより、求職者の応募を促しています。なお、キャリアパスシートは、5階層で設定しており、入職時や個人面談で職員に伝えています。そのほか、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすために、昼礼・職員会議・非常勤会議において意見交換を行うとともに、事前に議題内容を共有することで、会議や研修中の発言を促しています。

職員の意向を個別面談や意向調査で把握しながら育成につなげています

個別面談(8月)・意向調査(12月)などで職員の意向を把握し、個々の研修希望を確認しながら研修計画を立てています。職員が受講した研修内容は研修報告書に記録して、報告書の回覧や、必要に応じて職員会議で報告を行い、他の職員と共有できるようにしています。なお、育成の成果については、8月に実施している個人面談で確認するとともに、自己評価シートに記録しています。そのほか、職員会議の際に、保育雑誌の研修ページを活用して職員間で学びを深めています。

有給休暇の取得率を高めるなど、職員が働きやすい環境整備に取り組んでいます

福利厚生具体的な内容として、さるびあタウン(勤労者福祉サービス)などを取り入れています。また、有給休暇の取得率を高めるために、有給希望を反映させた勤務表づくりに配慮するとともに、出産・育児休暇の取得を促進するために、出産予定者への制度説明など工夫しています。そのほか、職員の定着率を高めるために、懇親会を実施するなど、働きがいや意欲向上に取り組んでいます。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度において、「職員不足(正規)」を重要課題の一つと掲げていました。その背景として、業界全体を通じた保育士不足の状況が要因として挙げられます。そのような課題に対して「正規職員の雇用」を目標として掲げていました。そこで、「保育養成校との連携・交流」「紹介会社との信頼関係の構築」「法人内職員の応援出向依頼」に取り組みました。具体的な取り組みとして、保育養成校の学生をボランティアとして受け入れ、子どもたちと関わる機会を積極的に設けました。また、紹介会社の担当者に、直接、園の保育観・雰囲気・課題・特徴などを伝え、職場環境にあった人材を紹介してもらえるように努めました。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 課題を払しょくするため、現在行っている保育養成校との連携や、人材紹介会社との信頼関係の構築を進めるとともに、職員一人ひとりの経験・能力に応じた研修プログラムを設定し、キャリアアップの制度を推進するなど、重層的な組織にしていこうとしています。長期的な視点での人材育成と組織マネジメントが期待されます。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「安定的な経営」を重要課題の一つと掲げていました。その背景として、新設園のため、収支計画が安定しなかったことが挙げられます。そのような課題に対して一定の資金収支差額を目標として掲げていました。期間を年度内と定め、適当な支出に取り組みました。結果として、目標としていた資金収支差額の10%程度となり、より詳細な予算管理の必要性を捉えています。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

開設2年目の昨年度において、定員が埋まらず、また園庭整備などの費用がかかったことから収支が安定しませんでした。そこで、予算進捗を管理し、随時必要経費の見直しを行っています。現在は職員不足もあり、収支は安定していますが、来年度に向けてより詳細な予算管理が求められます。基盤整備を進めながら適切な予算管理を行っていくことが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
ホームページを整備し、「今日の出来事」として保育の様子を毎日更新しています 園の情報を提供する媒体としてパンフレットを発行し、「保育のねらい・保育園の一日・園の概要・年間行事・子育て広場・一時保育・交通案内」などの内容を紹介しています。なお、利用希望者などの多様なニーズに配慮して、パンフレットはポケットサイズになるよう三つ折りにて作成しています。また、ホームページには、園の特長・今日の出来事・年間活動行事・園内の様子・各種届出書・情報公開などのコンテンツを設けて、今日の出来事を毎日更新しています。今日の出来事にはパスワードを設け、保護者のみ閲覧できるように設定しています。 園見学は希望する日時に応じて個別開催し、園の特長を分かりやすく説明しています 園の情報は行政や関係機関などに提供し、「まちだ子育てサイト」にも関連する情報が掲載されています。また、町田市保育・幼稚園課などの関係機関を通じて、園の情報を地域に届けています。見学者対応は園長または主任保育士が担当し、希望者の都合に合わせて日時を調整しています。見学会では、「園バスを利用して遠出ができること」「ホームページの今日の出来事を毎日更新していること」「通園リュック・アンパンマンバック・カラー帽子や布団など、園で使用するものは貸与していること」などの特長について分かりやすく説明しています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園説明会時に個別面談を実施し、保護者の意向を把握しています 入園が決まった利用者には、「児童表・入園までの生活状況調査票・入園のしおり・喫食状況確認書・保健アンケート・健康カード」などの資料を用意し、入園説明会前に保護者へ手渡しています。また、入園説明会を2月の土曜日に開催し、準備物などの見本を提示しています。その際、サービス内容については重要事項説明書で、プライバシーの保護については個人情報使用承諾書などで同意確認を得ています。サービス内容に対する保護者の意向を入園説明会時の個別面談で把握し、面談記録に記しています。 園生活に必要な布団・リュック・体操服などは、園で統一したものを用意しています サービスの開始にあわせて、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態を「入園までの生活状況調査票」で把握しています。また、子どもの不安やストレスが軽減されるように、1週間を目安に慣らし保育期間を設けています。その期間中には、担任から子どもの様子を説明し、保護者の保育に対する理解や安心を得られるように接しています。布団・リュック・体操服など、必要なものは園で統一のものを用意し、卒園まで貸し出しを行うことで、保護者の負担を軽減しています。 卒園前の転園に関しては、必要に応じて発達記録を提供できるようにしています 卒園前に退園や転園をする園児には、アルバムなどをプレゼントしています。転園先には、必要に応じて発達記録を提供できるようにしています。開園3年目で中途退園の実績も少ないことから、今後退園および転園した子どもと保護者に対するサポートを実施していく予定です。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの心身状況や生活状況について、発達記録・保育経過記録を作成しています 子どもの心身状況や生活状況などを把握するため、保育日誌に子ども一人ひとりについての記録欄を設け、0～2歳児クラスでは連絡帳を毎日取り交わしています。そのほか、発達記録・保育経過記録も作成しています。それらの記録は、保育業務支援ソフトにより作成・管理しています。子どもの個別の保育目標については月案に、家庭や保護者の個別のニーズや支援方針は、保育経過記録に記録しています。そして、児童票において発達記録・保育経過記録を、0～2歳児は毎月ごと、3～5歳児は3カ月ごとに集約しながら記録しています。 面談を実施し、就学時期に学習ワークを取り入れるなど指導計画に反映させています 「全体的な計画」に基づき、年・月・週を単位として指導計画を作成します。そして、個別指導計画は0～2歳児クラスの子どもと個別支援の必要性に応じて作成しています。指導計画の作成にあたり、必要に応じて面談を設定し「睡眠の状況・就学準備・兄弟姉妹の出生」などを把握し、就学控えた時期においては学習ワークを取り入れています。保護者に対して、年間指導計画を園内に掲示して保育の見通しを示すとともに、個別の指導方針は面談などで共有しています。指導計画の見直しや行事の変更などについては、職員会議で変更を決定しています。 職員間で子どもに関する情報を共有するため、職員会議のほか定例会議を開催しています 保育目標の達成状況や指導計画の推進状況は、職員会議・乳児会議・幼児会議で評価しています。職員間で子どもに関する情報を共有するために、月1回園長・主任・常勤職員が参加する職員会議に加えて、乳児会議・幼児会議・献立会議・非常勤会議などの定例会議を開催しています。そのほか、毎日15分程度の昼礼を行い、日々の子どもや保護者の状況については昼礼記録を活用し、乳児会議・幼児会議で情報共有しています。子ども一人ひとりに対する理解を深めるために、職員会議・園内研修で「異年齢の関わり方」をテーマに話し合っています。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
子どもの羞恥心に配慮し、0歳児のオムツ交換も個別に環境を整えて行っています。 個人情報について入園説明会・重要事項説明書で説明し、プライバシーの保護については、個人情報使用承諾書・個人情報保護誓約書で同意確認を得ています。突発的に個人情報を提供する必要が発生した場合は、電話で確認を取るようにしています。子どもの羞恥心に配慮し、着脱時に全裸にならず上半身・下半身を順番に着替えるよう指導しています。そのほか、0歳児のオムツ交換は他児の視線が届かないトイレで個別に行っています。 「肌の色の違い」についてのおたよりを配付するなど、外国籍のご家庭に配慮しています 子ども一人ひとりを尊重する姿勢を持てるよう、職員会議で「言葉かけの言い換え」などをテーマに話し合っています。また、行事アンケート・個人面談・利用者アンケートを行い、日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。そして、子どもに対しては、食事を提供する際に苦手な物をあらかじめ減らしたり、午睡時間に眠れない子どもの居場所も確保しています。さらに、宗教観や文化に配慮し、宗教食の提供をしています。そのほか、「肌の色の違い」についてのおたよりを配付するなど、外国籍のご家庭に配慮しています。 虐待や不適切保育の発生を抑止するために、園独自でチェックリストを活用しています 虐待や育児困難などの事案について、虐待防止対応マニュアルに則って対応しています。加えて、人権擁護のためのセルフチェックリストの活用により職員自らの行動を振り返ることを促しています。さらに、園で独自に簡易チェックリストを活用し、その結果を集約して組織的に共有しています。出来ていないことを確認した点については研修テーマとして取り上げ、改善を図っています。そのほか、虐待に関するニュースなどが報道された際は、園長より昼礼・職員会議で情報を共有しています。		

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評			
職員に「保育の手引き」を配布するとともに、保育実践マニュアルを作成中です 業務の標準化を図るため、法人として「運営規定・情報公開要綱・就業規則」を整備するとともに、園で独自に「おさんぽマニュアル」を作成しています。また、職員に「保育の手引き(職員の心得)」を配布し、職員会議の際に確認することで理解の普及を図っています。そして現在、各学年ごとに保育の手法などをまとめたマニュアル作成を進めています。なお、マニュアルに沿った業務の実施状況は、自己評価の機会に園長が中心となり確認しています。 保護者や職員の声を受け、適宜業務の進め方を見直しています 開園3年目ということもあり、定期的なマニュアルの見直しは適宜取り組んでいます。今年度は保護者の声を受け、「給食衛生マニュアル」について見直しを図りました。また、職員の声を受けて、園バス利用時の人数確認・水遊びやプール遊びの実施方法について見直しました。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当		
評価項目1の講評				
絵本や玩具は子どもが取りやすい高さに設置し、自由に取り出せるよう配慮しています 駅および大型ショッピングモールからほど近くに位置しています。そして、園内では生活目的に応じて「着替え・お昼寝・食事」のコーナーや、遊びに応じた「おままごと・絵本・ブロック・お絵描き・ぬりえ」のコーナーを設けています。子どもは保育室内で自由に過ごすことができ、使いたい玩具や教材を自由に取り出せるように子どもの目線に合わせた絵本棚や玩具棚を設置しています。 異年齢のお友達を思いやり、憧れる気持ちを育むため、異年齢交流の時間を設けています 「年上のお友だちに憧れる気持ちを持つ・年下のお友だちを思いやる気持ちを持つ」ことを目的に、朝夕保育・散歩・室内遊びを一緒に行っています。一方、海外の文化に親しむことが出来るように、絵本や地図を用意したり、保護者の要望を受けて英会話の体験教室に参加したりしています。あわせて、国内の文化に親しむ機会として、今後は日本地図や職員の出身地に関する郷土料理を取り入れていくことを検討しています。 特別な配慮が必要な子どもを受け入れる際は個別対応経験の豊かな職員を配置しています 特別な配慮を必要とする子どもを受け入れる際は、非常勤職員を配置したりパーソナルスペースを確保したりと環境を整えています。また、市の子ども発達センターなどと連携するとともに、心理士・理学療法士の助言を受けながら適切な指導を心がけています。子ども同士のけんかやトラブルは必要に応じて介入し、発達の過程で生じるかみつきなどは「子ども同士の距離を取る」「職員が近くで見守る」などの方法で予防に努めています。トラブルが発生した際は、事故報告書などを作成し、昼礼で再発防止策を検討しています。				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
当日の活動内容はホームページやホワイトボードを活用して保護者に伝えています 登園時には毎回保護者へ体調・検温などを確認し、必要な情報を毎日メモに記録し、職員間で引き継いでいます。また、保育アプリの連絡帳(機能)により、健康状態(午睡・排便・体温)、喫食状況(午前おやつ・昼食・午後おやつ)を確認しています。そして降園時には、毎回の活動およびエピソードを対面で報告しています。あわせて、ホームページのコンテンツ「今日の出来事」を更新するとともに、幼児クラスではホワイトボードで活動内容を報告しています。行事などの特別なプログラムについては、園内に写真の掲示も行っています。 子どもの発達段階に応じ、食事や排泄、着替えなどの指導を実施しています 子どもの発達段階に応じた支援の方法について、「年齢別安全マニュアル」や「0・1・2歳児の発達と保育」「3・4・5歳児の発達と保育」に示しています。具体的な取り組みとして、食事指導では箸つまみゲームを行っています。排泄指導では、トイレに誘うようにして無理なく習慣化できるように配慮しています。歯磨き指導はコロナ禍のため一旦中止しており、今後については検討中です。着替え指導では、着脱しやすい衣類を用意してもらい、達成感を味わえるような声掛けを実施しています。 午睡で使用する布団やタオルケットは園で用意し、安全と衛生を保っています 乳児の午睡時間を12時～14時45分、幼児の午睡時間を13時～15時と設定しています。午睡の際は、園で布団などの寝具を用意しています。布団マットは、今年度途中から特殊繊維製で通気が良いものに変更し、安全と衛生の両面で質を高めました。なお、午睡時間に眠れない子がいた場合は、一時保育室など空いているスペースで過ごせるようにしています。また、就学に向けた準備として、5歳児クラスでは1月頃から午睡時間の設定をなくしています。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子どもの主体性が発揮されるよう、行事内容や散歩先は子ども自身が話し合って決めます 子どもが主体的に活動できるように、目的と時間帯に応じて「おままごと・絵本・ブロック・お絵描き・ぬりえ」などのコーナーを設けています。また、散歩先での遊びについて子どもたちが話し合って決め、可能な限り希望を受け止めています。希望がかなわなかった子どもへは、次の機会の約束や代替案の提案をしています。そのような折に子どもが自分の気持ちを調整できるよう、職員はアンガーマネジメントや言葉がけの方法について学んでいます。4・5歳児クラスでは専門講師の指導による体操教室を実施し、ドッジボール大会にも参加しています。 子どもの感性を養うとともに、自分の言葉や描画で気持ちを表現する力を育んでいます 子どもが言葉に興味を持てるよう乳児期の子どもの積極的に声掛けを行い、絵本の読み聞かせを行っています。幼児期になると、ワークによる読み書きの指導も行っています。そのほか、幼児クラスでは当番活動(日直など)を行い、その中でも子どもが他人の意見を聞く機会を設けています。さらに、感性を養う機会として、植物の栽培と観察、散歩先での虫探しなどに力を入れています。感じたことや考えたことを表現する力を育む機会としては、「思い出絵・粘土を使った造形遊び・ままごと・なりきり遊び」などを取り入れています。 園バスで遠方の公園を訪れたり、パンと副菜を持ったパン散歩を行ったりしています 園庭では、複合遊具・砂場・ボールなどの遊びや活動を行っています。また、条件が整えば積極的に散歩に出かけて、近隣の公園や商業施設、園バスに乗って遠方の公園を訪れています。パンと副菜を持って出かける「パン散歩」も行っています。公園や散歩の道中では、遊具遊び・砂場遊び・虫探し・追いかっこなどをして過ごしています。そのほか、園内において、トマト・茄子・枝豆・いんげん・おくら・きゅうり・白ゴーヤなどの植物を育てたり、クワガタ・めだかなどの生き物を飼育しています。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
みんなで協力しやり遂げる喜びを味わえるよう、行事の内容は子ども自身が決めています 子どもの成長や保育の成果を発表する機会として「運動会・発表会」を、季節・文化・伝承に親しむ機会として「七夕・ハロウィン・クリスマス会・正月あそび・節分・ひなまつり」などを行っています。「お泊り保育」では、お弁当持参で遠足に行き、夕食後には花火を楽しんでいます。行事への興味や関心を高め、みんなで協力しやり遂げることの喜びを味わえるよう、「運動会・発表会・おまつり」などの行事においては子ども自身がプログラムの内容を決め、事前準備を一緒にしています。行事の振り返りとして、「思い出」を描いています。 行事の目的をクラスだよりで伝え、写真の販売や掲示により活動風景を伝えています 行事の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るために、年間行事予定表を年度当初に配布しています。また、行事ごとの目的をクラスだよりで伝えています。保護者が参加・見学できる行事として、「親子プレーデー・運動会・発表会」を開催しています。保護者が参加しない活動についても、写真の販売や掲示により活動時の様子を伝えています。個人面談・運動会・発表会などの行事については、アンケートを実施して保護者の声に耳を傾けています。 子どもの誕生日は、プレゼントやおやつデコレーションなどで盛り上げています 誕生日会の開催方法について、0～2歳児は各クラスごとに、幼児クラスでは合同でお祝いし、誕生日のインタビュー・歌のプレゼント・出し物・カードのプレゼントなどのプログラムで楽しめるようにしています。また、誕生日会にちなんで、おやつデコレーションなどの工夫をした給食を用意しています。さらに、写真・手形・メッセージを添えた誕生日カードをプレゼントし、誕生日が主役になって喜びを感じられるようにしています。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
木目調の什器を揃えとともに衣類や寝具を統一し、落ち着いた空間を整備しています 子どもが安心してくつろげるように、園内の扉やロッカーを木目調のもので揃えています。また、個人の所有物の持ち込みを控え、園で使用する体操服・スモッグ・リュック・布団は入園時から卒園まで貸し出して、皆で同じものを使用するようにしています。あわせて壁面装飾など環境づくりに配慮しています。要支援児には個別に職員を配置するなど職員体制を整えています。そのほか、子どもが疲れた際に身体を休めることができるよう、一時保育室を用意しています。 延長保育は専任の非常勤職員を配置し、個々の関わりを十分行えるよう配慮しています 18時～20時を延長保育時間として設定しています。それに合わせて、17時30分～18時の間には合同保育へ移行しています。合同保育は主に1歳児室で行い、普段使っていない玩具を用意しています。また、遅番専任の非常勤職員を配置するなど職員体制を整え、個々の関わりを十分に行えるよう配慮をしています。補食を提供する際は、夕食に影響しない分量を提供しています。夕食は、旬の野菜を使い、素材の味を生かしたものを提供しています。			

6

評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

楽しく食事ができる環境や、個々の状況に合わせた盛り付け量にするなど配慮しています

楽しく食事が出来る環境づくりに努め、各保育室などで定期的に席替えをし、グループごとに食事がとれるようにしています。その際、ゆとりをもった間隔をとるなど工夫しています。幼児クラスでは主菜と汁物は、保育室内で保育者が盛り付けた後、個々の要望に沿って「苦手な物は先に減らす」「食事を調節する」など、子どもたちの気持ちに寄り添っています。それにより、子どもたち自身が食べられる量を認識することに繋がっています。行事食では、キャラクターを象った盛り付けをして雰囲気を盛り上げています。

国産で旬の食材を活かす献立を立てるとともに、個別のニーズに合わせて調理しています

食材は可能な限り国産で旬のものを扱い、素材の味を生かすことを大切にしています。主食は米飯を中心としています。食器は陶器製のものを使い、大切に使う意識を育んでいます。形状は、年齢や発達に合わせて段階的に選択しています。食物アレルギーのある子どもへは、給食衛生管理マニュアル・食物アレルギー対応マニュアルに沿って除去食または代替食を提供しています。そして、他児から距離を置き、専用テーブル・色違いの食器・名前入りトレー・食札を用意して誤食の防止に努めています。

食材の栽培・調理・絵本を通じて、子どもが食と健康への関心を持てるようにしています

食育活動では、食事に関わるさまざまな経験から心と体を育てていくことを大切にしています。その日の献立に含まれる食材が登場する絵本を読み聞かせたり、3色食品群について説明しています。「トマト・茄子・枝豆・いんげん・オクラ・きゅうり・白ゴーヤ」を栽培し、収穫した野菜は味噌汁などにして食べています。調理体験として0歳児から野菜洗いなどを行い、5歳児クラスになると、梅ジュース・かぼちゃ団子・夏野菜ケーキ・冬野菜パン・クッキー・サンドイッチ作りなども行っています。また、近隣の畑でサツマイモ掘りも体験しています。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

生活環境に潜む危険に気づけるよう、扉の開閉についての説明や園内探検を行っています

子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、毎月火災や地震を想定した避難訓練を実施しています。また、職員が不審者役となり不審者訓練を実施しています。警察署と連携をとった交通安全指導は実施していませんが、普段の散歩中など、交通ルールについて保育士より指導しています。健康指導では、市の歯科衛生士による虫歯予防教室や、常駐看護師により手洗い教室を行っています。さらに、普段の生活環境に潜む危険に気づけるよう、扉の開閉についての説明や園内探検を行い、事故・怪我の防止につなげています。

子どもの健康状態を把握するため、定期的に内科健診と歯科健診を実施しています

子どもの健康状態を把握するため、内科健診を0歳児クラスで年4回、1歳児以上のクラスで年2回実施しています。また、全園児を対象に歯科健診を年1回実施しています。与薬は基本的にやっていませんが、熱性けいれん・食物アレルギーなどのケースに対しては、与薬依頼書の提出とともに薬を預かっています。

保護者と連携して子どもの健康管理に取り組むため、毎月保健だよりを発行しています

保護者と連携して子どもの健康維持に取り組むために、保健だよりを毎月発行して健康管理の方法などを伝えています。感染症の流行やSIDSの発生を予防するため、職員会議で対策を確認しています。感染症発生時には、事務所前の掲示と一斉メールの送信、ホームページへのお知らせの掲載により、保護者に情報を提供しています。SIDS対策として、ベビーセンサーの活用(0歳児)とともに午睡チェックを行い、健康状態と寝姿を午睡チェック表に記録しています。このような取り組みについて、入園説明会で看護師から保護者に説明しています。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(○○○○●)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
○あり ●なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の価値観や事情に寄り添った支援を行うため、アンケート調査を実施しています 子育て支援・就労支援を基本方針に掲げています。接遇方法について、「保育の手引き(職員の心得)」を整備し、職員の理解を促しています。また、保護者の価値観や事情に寄り添った支援を行うために、保育時間調査票・個人面談により、意向や家庭の状況を確認しています。加えて、行事アンケート・利用者アンケートにより、日常的なサービスに係る保護者の意向を把握しています。直近では、年間指導計画の掲示・習い事時の兄弟姉妹児の預かりなどの要望に対応しました。 保護者同士の交流促進のため、親子プレーデーや懇親会を開催しています 保護者同士の交流促進を目的として、「親子プレーデー・懇談会」を開催しています。また、保護者と職員の信頼関係を深めるための取り組みとして、個別面談を年2回(7月・12月)、懇談会を年2回(6月・3月)実施しています。なお、個人面談は期間を1カ月間として希望日を確認しており、保育参観は期間を定めず随時事前予約で参加可能とするなど、保護者の都合に配慮しています。あわせて、日々のコミュニケーションを大切にしています。そして、職員一人ひとりを知ってもらうために、職員紹介を作成・掲示しています。 子育ての考え方について互いの理解を深めるため、懇談会や個人面談を行っています 子育ての考え方について互いの理解を深めるために、懇談会・個人面談を行い、「イヤイヤ期の対応」などのテーマで意見を交換しています。懇談会の保護者参加率は非常に高く、ほとんどの保護者が参加しています。また、毎月園だよりでは園長の保育に対する思いを伝え、各クラスだよりでは子どもたちの成長や好きな物、好きなことを写真とともに伝えています。クラスだよりは各家庭に配布するとともに、各クラスや一階事務室横にも掲示し、保護者の目にとどまるようにしています。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(○○)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
地域資源の活用を図るとともに、保育実習や職場体験で学生を受け入れています 開園初年度は、近隣のテニススクールの体験に参加するなど、地域との繋がりを持つため積極的に働きかけをしています。現在は、散歩のほか畑での芋ほり体験を行っており、今後は図書館にある貸し出しスペースを訪れることも計画しています。また、社会性を養うことを目的として、職員以外の人と交流しています。養成校からの保育実習生を受け入れたり、大学生の職場体験を受け入れたりして、子どもと遊んでもらっています。そのほか、小規模保育園と連携し、同世代の子ども同士の交流を促進しています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	保育内容に特色を持たせたいと考え、体操教室に加えて英語教育の導入を模索しています	
内容①	利用者調査の設問「園が独自に組み立てている日々の活動や教育などのプログラムは、子どもの心身の発達に役立っていると感じますか？」における「はい」の回答率が86%と、東京都の平均値よりも10ポイント低い数値となります。自由記述のコメントでも、教育プログラムの充実を望む声が聴かれました。園としても、「同一エリアに同法人が運営する保育所が4園あるため、今後はそれぞれで特色を出していく必要がある」と考えています。今年度から伝承遊び(わらべうた)やリトミック(音楽あそび)を導入し、特色を出そうとしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル②	職員の採用ルートを開拓するとともに、余裕を持って働ける体制の整備に努めています	
内容②	開設して3年目を迎えていますが、職員の採用と定着が課題となっています。それに伴い、採用基準の厳格化や紹介会社との信頼関係の構築にも取り組もうとしています。そして、近隣の養成校を訪問して採用ルートの開拓に努めるとともに、採用した職員に対するキャリア支援の充実を図ろうとしています。あわせて、自己評価において「在籍している職員(保育・調理、正規、非常勤)は良好な人間関係が築けている」と捉えており、今後は職員が余裕を持ちながら働ける環境と体制の整備を実現したいと考えています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	研修の実施や専門リーダーを配置することで組織力を高めようとしています	
内容③	主任が講師となって園内研修を実施しています。例えば不適切保育では、単純にNGワードを使わないではなく、「なぜ使ってはいけないか」、「子どもに何を伝えたいか」という部分を園内研修で伝えていきます。職員が受講した研修内容は研修報告書に記録し、研修報告書の回覧や、職員会議での報告により、他の職員と共有しています。また、職員会議の際に、保育雑誌の研修ページを活用して職員間で学びを深めています。今後、子育て支援リーダーや研修リーダーなどの専門性を持った職員を設置して、重層的な組織にしていこうとしています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	遊びのフィールドを広げ、商業施設の探検やさつまいも掘り、「パン散歩」、バスハイクなど戸外活動を充実させています
	内容	園庭では、複合遊具・砂場・ボールなどの遊びや活動を行うとともに、夏の水遊びはバルコニーや屋上で行っています。また、条件が整えば積極的に散歩に出かけており、近隣の公園や商業施設を訪れています。加えて、地域の方の畑を借りて、さつまいも掘りを体験しています。そのほか、パンと副菜を持って出かける「パン散歩」や、園バス「あんぱんまん号」に乗って出かける「遠足」「バスハイク」を行うなど戸外活動を充実させています。
2	タイトル	「家庭に優しいシステム」を導入して生活品の貸与を行うとともに、利用者アンケートにより保護者の価値観や意見を受け止めています
	内容	「家庭に優しいシステム」を導入し、「布団・布団カバー・通園リュック・アンパンマンバッグ・カラー帽子・スモック・体操着」の貸与と「使用済みオムツの処分」を無料で行っています。また、利用者アンケートを通して、保護者のさまざまな価値観や意見を受け止めています。そのほか、職員は保護者との丁寧なコミュニケーションを心がけています。これらの視点や取り組みを持って保護者支援の充実を図り、満足度の向上に繋げています。利用者調査の「職員の言葉遣いや態度、身だしなみ」に関する設問において、「はい」の回答率が95.9%でした。
3	タイトル	3色食品群の説明や、調理体験などの食事に関わるさまざまな経験から子どもの心と体を育てています
	内容	食材は可能な限り国産で旬のものを買い、素材の味を生かすことを大切にしています。また、食育活動として、その日の献立に含まれる食材が登場する絵本を読み聞かせたり、3色食品群について説明しています。調理体験は0歳児クラスから機会を持ち、野菜洗いを体験しています。5歳児クラスでは、梅ジュース・かぼちゃ団子・夏野菜ケーキ・冬野菜パン・クッキー・サンドイッチなどの調理も行っています。このような体験を通して、食育目標である「食事に関わるさまざまな経験から心と体を育てていくこと」に繋げています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域施設やボランティア、そして小学校との連携を模索し、子どもの価値観を広げる多様な体験の機会を設けることが期待されます
	内容	散歩コースで、緑豊かで遊具のある公園を訪れるとともに、近隣の畑を借りて芋ほりを体験しています。ただし、地域の散歩コースが充実する一方で、職員以外の人と交流を深める機会を充実させる状態には至っていません。また、コロナ禍の影響が続いているため、小学校との交流も実現できていません。今後に向けて、地域の公共施設・福祉施設・商店やボランティア（団体含む）との連携を模索し、子どもの価値観を広げる多様な体験の機会を設けることが期待されます。
2	タイトル	保育実践マニュアルの作成に取り組むとともに、全体的な計画について具体化することで、園の独自性が表せるものと思われます
	内容	業務の標準化を図るため、法人として「運営規定・情報公開要綱・就業規則・保育の手引き（職員の心得）」を整備するとともに、園で独自に、おさんぽマニュアルなどのマニュアルを整備しています。これらは、職員の規範や業務手順に関するものであり、保育の考え方を実現する手段にふれるものとなっていません。そこで現在、各学年ごとに保育の手法をまとめたマニュアルを新たに作成中です。全体的な計画についても、平均的な内容を具体的な内容に置き換えることで、園の独自性を表せるようになっていくと思われます。
3	タイトル	中長期計画を作成し、園の目指す将来の展望を示すことで、単年度の取り組みがより明確になると考えられます
	内容	単年度の計画は、前年度3月に園長・主任を中心に作成し、事務所内キャビネットに保管するとともに、年度初めの職員会議で職員へ伝えています。事業計画には、「施設運営・施設管理・地域社会との連携」などの項目を設けて、それぞれの取り組み内容を記載しています。一方で、計画は1年間を単位としており、中長期計画については現在作成中となっています。中長期計画を作成し、園の目指す将来の展望を示すことで、単年度の取り組みがより明確になると考えられます。